



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより

ためし



令和7年5月21日号 文責 上久木田 雄二



「できる」ってなんだろう

学校の常套句ではありますが、子どもたちへの声かけの一つに、

「あなたは、やればできるんだから。」

という台詞があります。

しかし、私はこの台詞に対して、疑わしさを持っているのです。ですから、私はこの台詞を言うことはないです。

もしこの台詞を言わなければいけないときは必ず、

「ほめ言葉ではないけど……。」

と言ってから使うようにしています。

「やればできる。」が誉め言葉にならない理由をご存じですか。「やればできる。」という状況を考えれば分かると思います。「やればできる」とは、まず

やっていない状況がある

ということです。やらなかった事実を目を向けず、結果的に帳尻を合わせたことだけを称賛することは、子どもに間違っただけの意識を植え付けるような気がしてならないのです。

「やればできるとって。」

こう言って、朝から教室で宿題を片付けた子どもが話をします。このやり取りは、学校の朝からの風景ではよく見かけます。

その言葉には、

やればよかとやろ。
したとやっけんよかやろ。
せろって言われたけん、したたい。

という心が見え隠れするのです。

子どもたちは、家庭で「やればできる」と言ってその場を逃れようとしませんか。

帳尻を合わせただけの状況を「やればできるのね」と、ほめていませんか。

私が「できる」とほめるのは、「した」という事実があるときです。

してもいないのに、「できる」と言わせてはいけません。

大人の声かけ次第で、子どもたちの意識は大きく変わります。成熟したアプローチ方法を考えてみてください。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

